

視点

『えっ、そうだったの!? ~ 苫小牧 LOVER の雑感』

北海道電力ネットワーク株式会社 執行役員苫小牧支店長

(2018年4月北海道生産性本部理事・同年7月苫小牧地区支部長就任)

高田 聡(たかだ・さとし)氏



略歴:北海道出身。1986年3月高崎経済大学経済学部経営学科卒業。同年4月北海道電力(株)入社。2004年3月泊原子力事務所総務課長、05年10月東京支社総務グループリーダー、07年6月秘書室秘書グループリーダー、10年6月広報部広報企画グループ、14年6月同グループリーダーを歴任し、18年4月苫小牧支店長。20年4月北海道電力ネットワーク(株)苫小牧支店長、同年7月執行役員苫小牧支店長に就任。現在に至る。

苫小牧に勤務して約3年が経つ。すっかりこの街、この地域が気に入った。

住んでみて知ったことが数多くある。自分が無知だったことをさらけ出すようでお恥ずかしい限りだが、数多(あまた)の中で、「えっ、そうだったの!?!」ととても驚いた二つの事を会員の皆さまにご紹介したい(ご存知の方はご容赦を)。

一つ目、「苫小牧港は世界初の砂浜(内陸)を掘り込んで作られた人造港だった!」。

確かに航空写真を見ると、海岸線の内側に大きく開口した形であることが分かる。調べてみると、戦後、工業港としての必要性が認められ、1951年に起工。1960年に掘り込みが始まり1976年に完成。人造港ゆえに工事は海底の漂砂との闘いだったという。現在、多様な企業が集積し、この街を大きく発展させる原動力となった苫小牧港は、先人の苦勞の結晶だったのだ。

二つ目、「苫小牧開拓の礎は、屯田兵より73年前の江戸時代に入植した八王子出身の同心(幕府の下級役人)達によって築かれた!」。

この地域の開拓は、明治政府ではなく江戸幕府によって成されていた。江戸後期、蝦夷地に外国船が姿を現すようになり、警備と開拓が急務となったようだ。そこで1800年に八王子の同心50人が勇払地区に入植したのである。過酷な自然環境などにより、4年後に惜しくも土地を離れてしまったが、彼らは屯田兵の先駆けとなって、苫小牧の礎を築いたのだ。

さて、「苫小牧LOVER」となった私としては、定番の魅力もお伝えしないと気が済まなくなってきた。つれづれなるままに書き記してみたい。皆さんの

「苫小牧あるある」と付け合せていただけると幸いである。

- ・北海道屈指の工業都市(製紙、石油、自動車など)
- ・港湾都市(取扱貨物量は道内一位、全国四位)
- ・スケートの街(アイスホッケー、スピードスケート)
- ・ホッキ貝の漁獲量全国一位
- ・ホッキカレー
- ・よいとまけ(菓子)
- ・樽前山(活火山)
- ・ウトナイ湖(ラムサール条約登録湿地)

いくつご存知でした?

今や第二の故郷になった苫小牧。これからもこの街・地域を愛し、その魅力を伝えていきたい。

もちろん会社としても、地域の発展や活性化に向けて、次世代教育のお手伝い、イベントへの参加、清掃活動などを通じて、しっかり貢献していく所存である。

ちなみに「北海道電力ネットワーク」という会社名、馴染みが薄いものと拝察する。そこで末筆となったが会社の紹介をさせていただきたい。

弊社は、国の電気事業制度の見直しにより、昨年4月、「北海道電力」のコア事業であった「発電」「送配電」「小売」の内、「送配電」事業を担う会社として北海道電力から分社化された新会社である。略称は「ほくでんネットワーク」。道内各地域の送配電を担う事業所は、これまでどおりの場所で看板を掛け替えて、日夜、電気を皆さまにお届けしている。

「ほくでん」同様、ご愛顧賜りますようお願いしたい。